

【瀬戸内市教育委員会】
1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

瀬戸内市では、子どもが自ら課題を見出し、解決に向けた探求の方法を考え、それぞれの考えたことを表現しあいながら協働的に学びを進めることで、課題解決へ向かう「自律的学習者」の育成を学力向上の重点としています。自律的に学習を進めるには、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ることが求められます。ICTの特性・強みを生かした学習の過程の充実を通して、自律的学習者の育成を図るとともに、情報活用能力の育成を図ります。

2. GIGA第1期の総括

瀬戸内市では、学力向上プロジェクトの重点に「教育DXの推進」を挙げ、より個人に合わせた学習や協働的な学びにより、教科の学びを深めていくために、ICT機器やネットワーク環境の整備を推進するとともに、研究指定校による授業公開や教員対象の研修等を通じて、教員のICT活用指導力の向上を図ってきました。具体的な活用例については、小学校低・中学年では、生き物等の観察から得た個人の気づきを端末のカメラで撮影し、画像を共有することで気づきを深めています。小学校高学年や中学生では、インターネットを使用した情報の収集、学習支援ツールを活用した情報の整理分析、共同での発表資料の作成といった取組により、充実した意見交換や協働学習が進められています。家庭学習では、AIドリルを活用した個別最適な学びにより、児童生徒の基礎的学力の向上を図っています。

端末の活用は進んでいますが、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実について、課題があるため、ICTの特性や強みを生かした学習の過程について、さらに研究を深める必要があると考えています。

また、生活面においては、児童生徒の心の小さなSOSを早期に発見し、安心して学べる学校づくりに向け、今年度から心の健康観察機能を有した学習eポータルを導入しています。今後も、有効な活用法についてさらに研究を進めていくところです。

(1) 学校のICT環境整備状況

- ▶ 1人1台端末の整備
令和3年4月に、市内全ての小・中学校に整備。
- ▶ ICT機器の整備
第3期ICT機器整備事業により、令和4年中、全ての普通教室及び希望のあった特別教室にプロジェクタ又は電子黒板を整備。
- ▶ ネットワーク環境の整備
令和2年、市内小中学校全校にて、「公立学校情報通信ネットワーク環境施設整備費補助金」を活用し、校内LAN環境を整備。インターネット回線については、各校に光回線1Gbps(ベストエフォート)を敷設。
- ▶ 家庭学習のための通信機器の整備
家庭で端末を活用できるよう、モバイルWi-Fiルータを購入。
- ▶ ICT支援員の配置
ICT機器を効果的に活用した授業を展開するために、ICT支援員を3名配置。学校に訪問し、支援を行う(各校週1～2日)。また、総務学務課に常駐し、学校のトラブル対応や研修支援を行うGIGAスクールサポーターを配置。

(2) 研究校における実践

年 度	内 容
令和3年度	・GIGAスクール構想に係る実践研究協議会 (邑久小、国府小、行幸小) ・学習者用デジタル教科書実践協議会 (邑久小、美和小、行幸小、長船中) ・瀬戸内市教育委員会指定実践研究【ICT 活用】(美和小)
令和4年度	・GIGAスクール構想に係る実践研究協議会 (牛窓中、邑久中、長船中) ・学習者用デジタル教科書実践協議会 (牛窓東小、牛窓西小、牛窓北小、邑久小、今城小、裳掛小、美和小、国府小、行幸小、牛窓中、長船中) ・瀬戸内市教育委員会指定実践研究【ICT 活用】(今城小)
令和5年度	・GIGAスクール構想に係る実践研究協議会(市内全9小学校) ・学習者用デジタル教科書実践協議会(牛窓東小、牛窓西小、牛窓北小、邑久小、裳掛小、国府小、行幸小、牛窓中、邑久中、長船中) ・瀬戸内市教育委員会指定実践研究【ICT 活用】(国府小)
令和6年度	・瀬戸内市教育委員会指定実践研究【ICT 活用】(牛窓西小)
令和7年度	・瀬戸内市教育委員会指定実践研究【ICT 活用】(牛窓東小)

3. 1人1台端末の利活用方策

瀬戸内市では、GIGAスクール構想第2期において、端末を更新し、児童生徒1人1台の端末環境を引き続き維持します。その効果的な利用促進に向けて、以下の取り組みを進めていきます。また、第1期で明らかになった課題を踏まえ、端末の利用や運用の質を向上させるための具体的な対策と改善策を検討していきます。

(1) 1人1台端末の積極的活用

- ・すべての授業で1人1台端末活用の目標を掲げ、教職員が積極的に活用できる環境を整備します。
- ・クラウドサービスやデジタル教材を用いた宿題、テスト、アンケート等を実施し、個別最適な学習環境を提供します。
- ・引き続き、教職員を対象としたICT活用研修会を実施し、基礎的な操作スキルから授業での活用方法まで、段階的にスキルアップを支援します。
- ・研修内容は、教職員のニーズやスキルレベルに合わせて、個別指導やグループワークを取り入れるなど、多様な形式で実施します。
- ・ICT支援員を継続的に配置し、授業におけるICT活用を支援します。
- ・持ち帰りルールや環境整備は、児童生徒、教職員、保護者等の意見を参考に定期的に見直しを行います。

(3) 個別最適・協働的な学びの充実

- ・ AIドリルを活用し、児童生徒一人ひとりに合わせた学習を提供します。
- ・ 協働的な学習を実現するために、オンライン学習や学習支援ツールなどを活用します。

(4) 学びの保障

児童生徒の心の小さなSOSを早期に発見し、安心して学べる学校づくりに向け、令和6度から心の健康観察機能を有した学習eポータルを導入しています。今後も、有効な活用法についてさらに研究を進めていきます。

【教育DXに係るKPI】

項 目	K P I	現状値(R7年度)	目標値(R8年度)
個別最適・協働的な学びの充実	児童生徒が自分で調べる場面において1人1台端末を週3回以上使用させている	小5 100% 小6 100% 中 100%	小 100% 中 100%
	児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面において1人1台端末を週3回以上使用させている	小5 100% 小6 100% 中 66.7%	小 80% 中 80%
	教職員と児童生徒がやりとりする場面において1人1台端末を週3回以上使用させている	小5 100% 小6 100% 中 100%	小 80% 中 80%
	児童生徒同士がやりとりする場面において1人1台端末を週3回以上使用させている	小5 88.9% 小6 88.9% 中 66.7%	小 80% 中 80%
	児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面において1人1台端末を週3回以上使用させている	小5 100% 小6 88.9% 中 44.4%	小 80% 中 80%
学びの保障	希望する不登校児童生徒へ端末を活用した授業への参加・視聴の機会を提供している学校の率	市内全小中学校で実施可能	100%
	希望する児童生徒への端末を活用した教育相談を実施している学校の率	100%	100%
	外国人児童生徒に対する学習活動等の支援に端末を活用している学校の率	100%	100%
	障害のある児童生徒や病気療養児等、特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じて端末を活用した支援を実施している学校の率	100%	100%